

東広島交響楽団

結成10周年 第20回演奏会

新垣隆 交響曲『連^{れん}奏^{とう} - Litany -』 世界初演



新垣隆

流るる翠碧

指揮: 井手口彰典

ピアノ協奏曲『新生』

指揮: 井手口彰典

ピアノ: 新垣隆

交響曲『連^{れん}奏^{とう} - Litany -』 <世界初演>

指揮: 松尾亮平

Takashi Niigaki

2016.8.15(月) 15:00開演 (14:30開場、17:00終演予定)

広島国際会議場フェニックスホール

全席指定 S席 4,000円(限定200席) / A席 2,000円 / U25席 1,000円 (25歳以下対象・当日身分証持参必須)

6月18日(土)10:00 販売開始

【チケット取扱い】

セブン-イレブン セブンチケットコールセンター 0077-787-711
(購入方法ガイド専用回線 年中無休 8:00~23:00)

店内マルチコピー機セブンチケットボタンより

インターネット <http://7ticket.jp/>

エディオン広島本店(店頭窓口販売) 082-247-5111

企画協力: ノイエスアコルト

制作協力: ザ・カンパニー

お問合せ: 夢番地広島 082-249-3571 (平日 11:00~19:00)



主催

東広島交響楽団実行委員会
stefano_scarampella@yahoo.co.jp

東広島交響楽団

検索

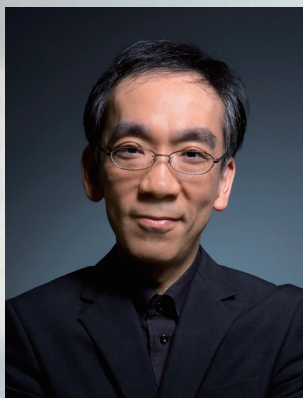
再起した街・再起する人

立教大学・音楽社会学 井手口彰典

広島、ヒロシマの、あるいはHIROSHIMAの本質とはなんだろう。「悲劇の街」であり「破壊された街」であることが、広島のすべてなのだろうか。もちろん原子爆弾の災禍を記憶し後世へと語り継いでいくことは重要である。しかし悲劇をただ悲劇として反芻し続けるだけでは、我々は前に進むことができない。広島の本質はむしろ、そんな悲劇を乗り越え焦土の中から再起してきた姿にこそ求められるべきではないのか。

HIROSHIMAと名付けられた交響曲が多くの感動を呼び、そしてそれ以上の大混乱を巻き起こしつつ我々の前から姿を消して、はや二年が過ぎた。想いを裏切られた人々の怒りはもつとだ。だが、このまま終わりにはできない、したくない。広島という街に連なる我々がなすべきは、あの「バクダン」会見によって音楽家生命の終焉まで覚悟した人物が、その後どのように再起し、どのような新しい芸術を創造するに至ったかを見届けることだと思うのだが、いかがだろうか。

新垣隆氏による新作交響曲が、終戦記念日に、不死鳥（フェニックス）と名付けられたホールで世界初演される。演奏を受け持つのは東広島交響楽団。アマチュアとしてあのHIROSHIMAを全曲演奏した経験を持つ、唯一の市民オーケストラだ。そこで鳴り響く音楽こそ、再起する人の交響曲、真の意味での「広島の交響曲」となるだろう。



新垣隆 (作曲家・ピアニスト)

Takashi Niigaki

1970年、東京に生まれる。4歳よりピアノを始め、ヤマハ音楽教室で作曲を学ぶ。幼少時からショパンの「幻想即興曲」に憧れ、小学校4年生のころにストラヴィンスキーやドビュッシーに出会い「子供の領分」「春の祭典」等大いに影響をうける。千葉県立幕張西高校音楽科入学、この頃、自作の曲をアマチュア・オーケストラが演奏して自分で指揮するという機会を得て、ドビュッシーや武満徹的要素を交えた曲をつくる。1989年桐朋学園大学音楽学部作曲科に入学。在学中、若き同志による型破りな音楽に視覚的な要素を加えた演奏会「冬の劇場」に参画。同学科を卒業後、作曲家ピアニストとして多岐にわたり精力的に活動する。作曲家としては、昭和期における作曲家達の研究に従事し現代音楽を主体としつつ映画やCM音楽の作曲も手掛ける。2013年度まで母校である桐朋学園大学音楽学部の非常勤講師を約20年にわたり務める。

最近ではテレビ・ラジオ番組に出演し、親しみやすいキャラクターとして今までとは違う一面も見せ輝きを増している。作曲を南聡、中川俊郎、三善晃、ピアノを中岡秀彦、河内純、夢藤哲彦、森安耀子の各氏に師事。

私

の中では今、ある種のカオス（混沌）が手応えある重さを伴いながら広がりは始めている。気配が立ち上がる。それがやがてどんな風景を私に見せてくれるのか、それはまだ私にもわからない。けれど確実に、私の中では萌芽の兆しがある。

騒動から二年が過ぎた。この間、多くの人々が私を支えてくれた。そのような中で曲が生まれ、また音楽の場を皆と共有した。

この時間の厚み、重さが私にとってどれだけ掛け替えのないものであるか、測り知れない。そして今、私はあらためてもう一度、オーケストラ曲を書かなければならないと思うようになった。

今度は私自身の意志として、私自身の名に於いて—

テーマは、やはりあらためて広島、そして福島、である。

原爆投下による焦土化から奇跡的な復興を成し遂げた日本は、今度は自らの手によって原子力による惨禍を招いた。

ただ私はその状況を直接描くというつもりはない。

大きな悲しみ、絶望から小さな、だが確かな希望へ、というプロセスの中で、歴史的な意味を持つふたつの地名が「暗号」として曲の構造の中に組み込まれるだろう。

そのようにして常に私達の記憶に留めておく、そのように考えている。

作曲家・新垣隆

東広島交響楽団

Higashihiroshima Symphony Orchestra



東広島交響楽団は、2005年12月、東広島市周辺に在住する有志たちによって、東広島市を拠点とする初の市民オーケストラとして結成されました。同月28日、結成記念演奏会として第1回演奏会を開催し好評を収めたのを皮切りに、年数回の演奏会を開催し、意欲的なプログラムに挑戦してきました。

当団は団員の固定をせず、毎回プログラムに合わせて参加者を募集するという形をとっています。そのため、人数の確保という課題を抱えながらも、その身軽さと自由さを活かした音楽活動を展開しています。

また幅広い参加者と音楽を通して交流したいという理念のもとに活動しており、これまでに小学生から社会人まで、また東広島市民のみにとどまらず他市や他県からも多くの参加者とともに音楽をつくってきました。

2013年8月には佐村河内守の作と言われていた交響曲第1番「HIROSHIMA」の全曲版広島初演、2015年5月には同じく東広島市を拠点に活動する東広島混声合唱団との合同演奏会を成功させるなど、年々その活動の幅を広げています。

結成10周年を記念し作成した楽団ロゴは、広島出身のアーティスト・エドツワキ氏によるデザイン。



©Ed TSUWAKI 2016

<主催> 東広島交響楽団実行委員会 stefano_scarampella@yahoo.co.jp

<問合せ> 夢番地広島 082-249-3571 (平日11:00~19:00)

- 演奏中の客席内への入退場は制限させていただきます
- やむを得ない事情により、曲目・出演者が変更されることがございます
- 公演中止の場合を除き、一度購入されたチケットの変更および払い戻しはいたしかねます
- 未就学児童の同伴はご遠慮ください